

# covid-19陽性者確認！？ 疑いのある/判明時の対応

事前の備えといざという時の対応について

千葉県がんセンター 感染管理部  
感染管理認定看護師/認定看護管理者  
前田 佐知子

# 内容

- \* 職員・利用者の健康管理とサービス利用状況の確認
- \* 疑い時点での感染区域管理の考え方
- \* 保健所との連絡内容・準備

# 事前の備え

- \* 感染のリスクゼロは無い。注意していても感染することはあるので、心の準備を
- \* 早期の探知と適切な対応（標準予防策）で、ウイルスの拡がりを最小限にする
- \* スタッフの大量離脱を出さないために、普段の仕事のやり方を見直す

# 職員・利用者の健康管理

- \* 高齢者は重症化しやすい
- \* 変異のあるウイルスの場合は、重症化は若い世代でも起こりうる
- \* 普段の体調と違う点を見逃さない

# 新型コロナウイルス 感染症を疑う症状

\* 発熱

\* 咳

\* 呼吸困難

\* 全身倦怠感

\* 咽頭痛

\* 鼻汁・鼻閉

\* 味覚・臭覚障害

\* 下痢など

# 利用者の健康状態

- \* 高齢者が重症化するのには、基礎疾患に加え体力と免疫細胞の働き方が十分では無いことが影響
- \* 複数の利用者の発熱や肺炎を疑う症状が同時に確認された場合は要注意
- \* 普段から体温と、パルスオキシメーターの計測を行い、ベースラインを把握しておく

# 複数施設の利用状況

- \* 複数のサービスや施設を利用されている方について、**2週間前の利用状況を把握**しておくとい
- \* COVID-19の潜伏期間は約5日であり、最長14日程度である。感染した場合は、その前に感染機会がある

# 職員の健康管理

- \* 施設に勤務するすべての職員は、毎日体調管理を行う
- \* 体温計測(2回/日)とCOVID-19を疑う症状が無いか記録し、管理者は確認
- \* 体調不良の時は出勤せず休む



# ダブルワークの把握

- \* 職員の勤務状況は有事発生の際、提出できるようセクションごとに管理しておく
- \* 別の勤務先があるかどうか把握しておく。濃厚接触者となった場合は、全ての職場への出勤見合わせが必要

# 濃厚接触者にならない 働き方

- \* ウイルスの感染経路は、目・鼻・口の粘  
膜で自分の手で運んでしまうことがほと  
んど ← **手指消毒が重要**
- \* マスクをつけていない相手の対応をす  
るときは、目のガードをする

# 濃厚接触の判断

## 参考例

- \* 1メートル以内で適切な防護具を使用せず、15分以上の接触があった場合
- \* 患者の気道分泌物、もしくは体液等、感染の可能性のある物質に直接接触した可能性が高い場合

# ケアの時のリスク回避

- \* 新型コロナウイルス感染症には標準予防策の徹底が極めて重要
- \* 職員から利用者や他の職員への感染を防ぐために常に不織布マスクをつける
- \* マスクをしていない利用者の介護もあるので目の粘膜のガードをいつもしておく

# 介護における留意点

- \* 入浴や食事、口腔ケアは相手がマスクをしていないので目のガードを必ずする
- \* 協力可能な利用者に、屋内・車内ではマスクを正しく装着してもらう
- \* 個人防護具のつけっぱなしは危険。介護で曝露した微生物を他に運ぶのでダメ

# プライベートでの リスク回避

- \* 施設での感染を防ぐには、無症状あるいは症状が軽微な職員からの感染を防止することが必要
- \* 同時に日常生活においても手洗い、マスク着用、同居者以外との会食や長時間会話を避けるなどの基本的対策をする

# まさか？の時の初期対応

- \* 速やかに施設の管理者に報告
- \* 施設関係者に情報共有と方針を伝え危機管理への協力を得る(臨時感染対策委員会の開催・職員広報)
- \* 保健所や行政機関に速やかに報告

# 状況把握のポイント

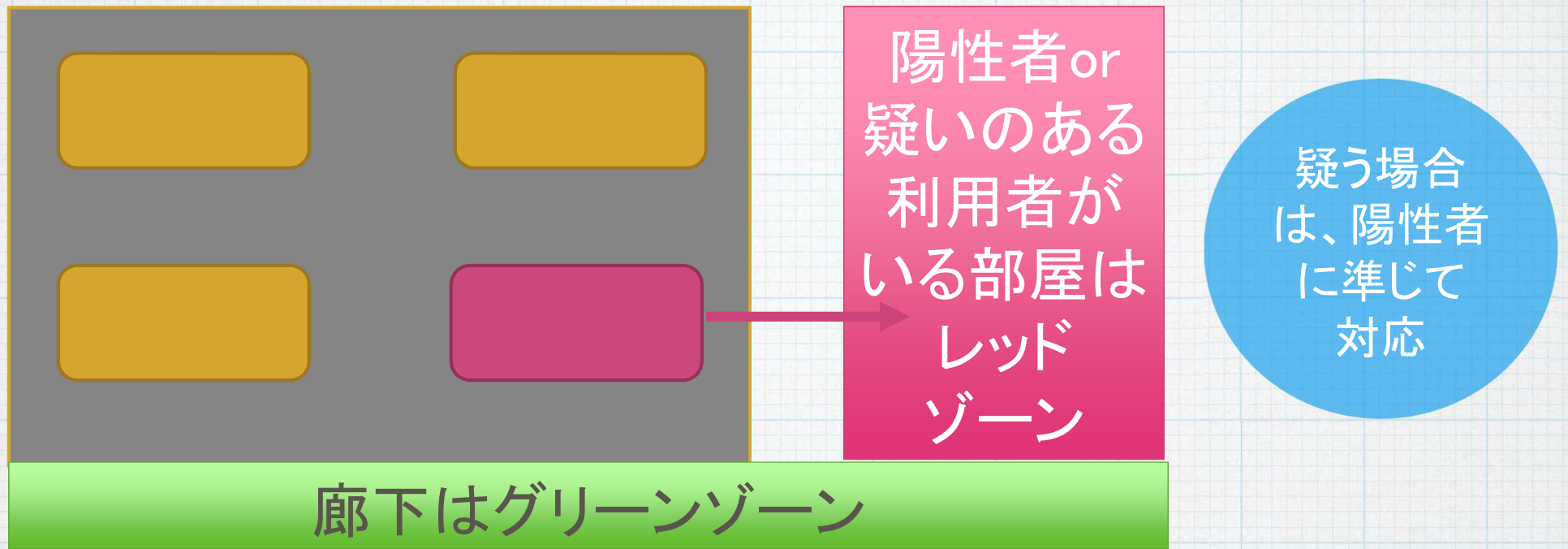
- \* 誰に、いつから、どのような症状があったか、実施した検査の確認(方法と日にち)
- \* 疑いのある方との接触があった方は誰か
- \* どこで勤務or入居していたか

**情報は、時系列でまとめる**



# 感染管理区域の設定

- \* 利用者の陽性が確認された場合に、他に広げないために感染区域とそれ以外の区域に居住スペースを分ける
- \* 感染区域：レッドゾーン
- \* それ以外・スタッフエリア：グリーンゾーン
- \* 陽性者が出た場合は、できるだけ居室で生活



- ①利用者が発熱し、コロナを疑ってPCR検査をした場合に、個室に移動できる環境を予め準備しておく。
- ②受診の結果、コロナの可能性が否定できない場合は、再検査を検討する。結果が判明するまで個室管理にしておく。  
陽性の場合は、入院までの間、感染対応をその部屋完結で実施。
- ③同じ部屋の方は、動かさない。また、空いた場所に新しい方を入れない。注意深く健康観察を始める。マスク+アイガード対応  
部屋移動を頻繁にすると、モザイク状に陽性者が増えることにつながる  
ので、初期には最小範囲で動かす。

# 区域分けの例



## 個室に陽性者を管理した例

- \* 廊下の清潔区域で防護具を着衣し入室
- \* 室内入り口付近でマスク以外の防護具を脱衣
- \* 廊下でマスク交換
- \* 着脱手順を掲示して毎回確認

# 保健所との連絡

- \* 施設内の利用者と職員の健康状態を随時報告する。管理者と連絡者は分けた方が良い(可能な限り)
- \* 施設の見取り図や感染対策マニュアルの提出ができるように準備しておく
- \* 情報は時系列に整理しておくこと円滑

# 必要な情報

- \* 利用者・職員有症状者の最新情報
- \* 体温と酸素飽和度、その他、体調で気になることを伝える⇐入院調整に必要（医師である保健所長が判断します）
- \* 施設から利用者家族への説明状況

# あなたの施設の準備は OK?

- \* 有事の際、施設のスタッフ一丸となって取り組む日頃できていないことは有事にできない
- \* 施設運営が持続可能となるように、リスクを低くする介護実践とスタッフ欠員時の業務継続計画を
- \* 感染経路を遮断するために、日頃から利用者ごとの手指衛生の徹底と正しく個人防護具を使えるようにトレーニングを

